

がん化学療法レジメン登録票

新規レジメン登録の際にはプロトコールの提出が必須です
プロトコールがない場合は参考文献を提出してください

レジメン名	Nivo + Ipi + CDDP+PEM
診療科名	呼吸器内科
診療科責任者名	大槻 歩
適応がん種	切除不能な進行・再発の非扁平上皮非小細胞肺がん
保険適応外の使用	□有 ■無

がん治療ワーキンググループ使用欄	
登録番号	NSCLC-095
登録日・更新日	登録日2021年4月27日・更新日2023年8月22日
削除日	
出典	オブジーボ、ヤーボイ添付文書, Lancet Oncol. 2021;22:198-211
入力者	伊勢崎竜也

投与順に記入(抗がん剤のみ)

Cycle 1

	薬剤名:一般名 (薬剤名・商品名) 希釈液	規格	投与量算出式	投与経路	投与時間	施行日
No.1	ニボルマブ(遺伝子組換え) (オブジーボ点滴静注)	240mg, 20mg	360mg/body	□IV ■DIV □CV □側管 □その他()	30分以上	day1
	生理食塩液	100mL				
No.2	イビリムマブ(遺伝子組換え) (ヤーボイ点滴静注液)	50mg	1mg/kg	□IV ■DIV □CV □側管 □その他()	30分	day1
	生理食塩液	50mL				
No.2	シスプラチナ (シスプラチナ注入)	10mg, 50mg	75mg/m2	□IV ■DIV □CV □側管 □その他()	2時間	day1
	生理食塩液	500mL				
No.3	ペメトレキセドナトリウムヘミペンタ水和物 (ペメトレキセド点滴静注液)	100mg, 500mg, 800mg	500 mg/m2	□IV ■DIV □CV □側管 □その他()	10分	day1
	生理食塩液	100mL				

Cycle 2

	薬剤名:一般名 (薬剤名・商品名) 希釈液	規格	投与量算出式	投与経路	投与時間	施行日
No.1	ニボルマブ(遺伝子組換え) (オブジーボ点滴静注)	240mg, 20mg	360mg/body	□IV ■DIV □CV □側管 □その他()	30分以上	day1
	生理食塩液	100mL				
No.2	シスプラチナ (シスプラチナ注入)	10mg, 50mg	75mg/m2	□IV ■DIV □CV □側管 □その他()	2時間	day1
	生理食塩液 *1	500mL				
No.3	ペメトレキセドナトリウムヘミペンタ水和物 (ペメトレキセド点滴静注液)	100mg, 500mg, 800mg	500mg/m2	□IV ■DIV □CV □側管 □その他()	10分	day1
	生理食塩液	100mL				

Cycle 3以降

	薬剤名:一般名 (薬剤名・商品名) 希釈液	規格	投与量算出式	投与経路	投与時間	施行日
No.1	ニボルマブ(遺伝子組換え) (オブジーボ点滴静注)	240mg, 20mg	360mg/body	□IV ■DIV □CV □側管 □その他()	30分以上	day1, 22
	生理食塩液	100mL				
No.2	イビリムマブ(遺伝子組換え) (ヤーボイ点滴静注液)	50mg	1mg/kg	□IV ■DIV □CV □側管 □その他()	30分	day1
	生理食塩液	50mL				

1コースの期間	Cycle1, 2:21日
	Cycle3以降:42日
投与間隔の短縮規定	■短縮可能(1日) • □短縮不可能
計算後の投与量上限値	110%
計算後の投与量下限値	50%
減量・中止基準	<p>【初回治療開始基準】 WBC > 2000/mm³ かつ ANC > 1500/mm³ Hb > 9.0g/dL Plt > 10万/mm³ T-Bil < 2.0mg/dL AST < 100IU/L ALT < 100IU/L 血清Cr ≤ 1.5mg/dL またはクレアチニクリアランス ≥ 50mL/min</p>
前投薬	<p>Cycle1,2 : アプレビタント+5-HT3受容体拮抗薬+デキサメタゾン Cycle3 : なし</p> <ul style="list-style-type: none"> ペメトレキセド初回投与の7日前以上前から葉酸として1日1回0.5mg(パンピタン1g)を連日経口投与する(ペメトレキセドの投与を中止又は終了する場合には、最終投与日から22日目まで投与する) ペメトレキセド初回投与の7日前にビタミンB12として1回1mg(メコバラミン注入2A)を筋肉内投与する(ペメトレキセド投与期間中及び投与中止後22日目まで9週ごと(3コースごと)に1回投与する)
その他の注意事項	<p>*1 シスプラチナのハイドレーションは当院の標準化に従う</p> <p>【ニボルマブ】 希釈後の最終濃度0.35mg/mL未満では、本剤の点滴溶液中の安定性が確認されていない。</p> <p>【イビリムマブ】 そのまま、もしくは生理食塩液又は5%ドウ糖注射液を用いて1~4mg/mLの濃度に希釈し、投与すること。</p> <p>【ニボルマブ、イビリムマブ 共通】 インラインフィルター(0.2又は0.22 μm)を使用する。</p> <p>【免疫チェックポイント阻害薬を使用する際の注意事項】を参照</p>

記入者	伊勢崎竜也
確認者	大槻 歩